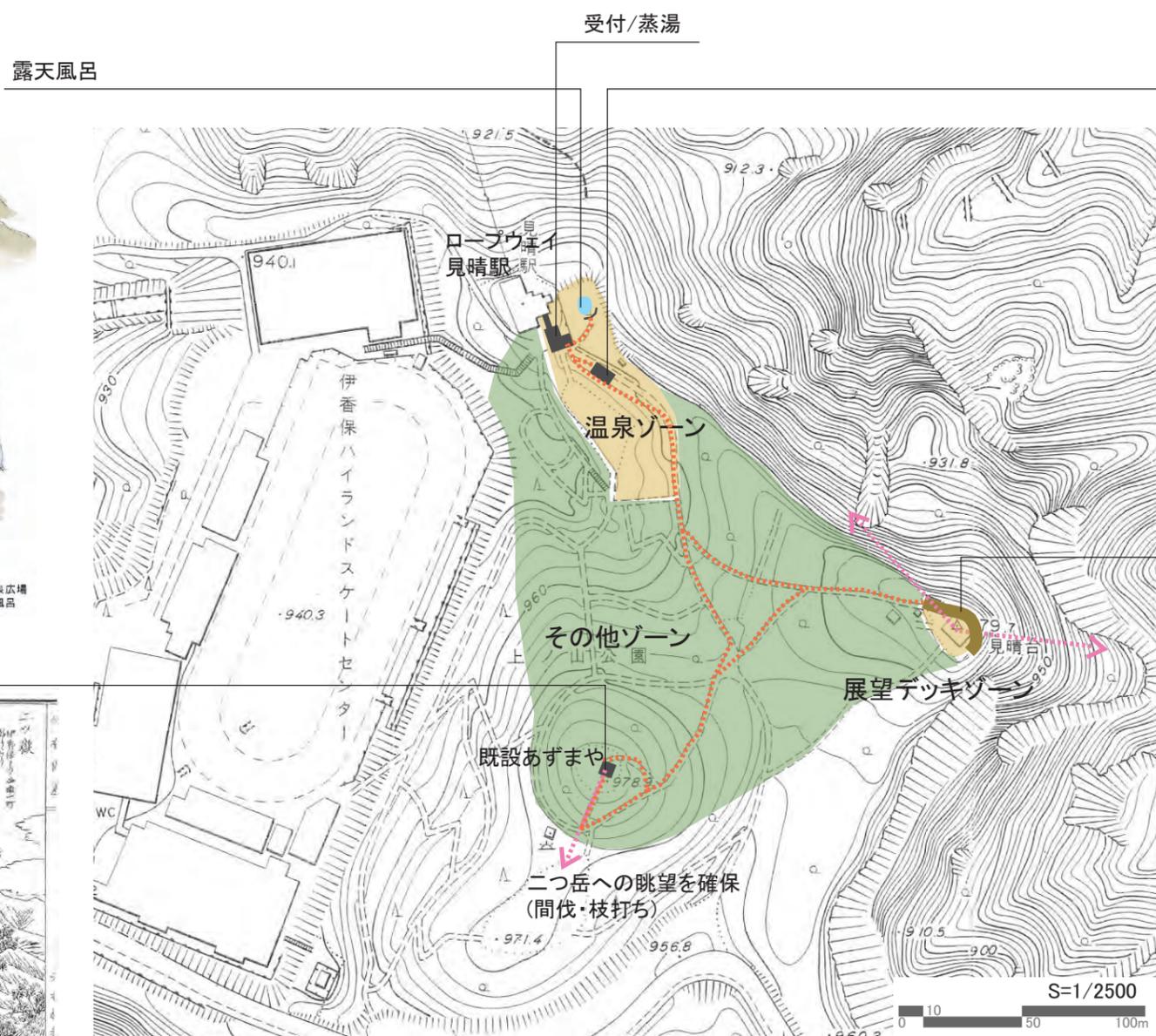
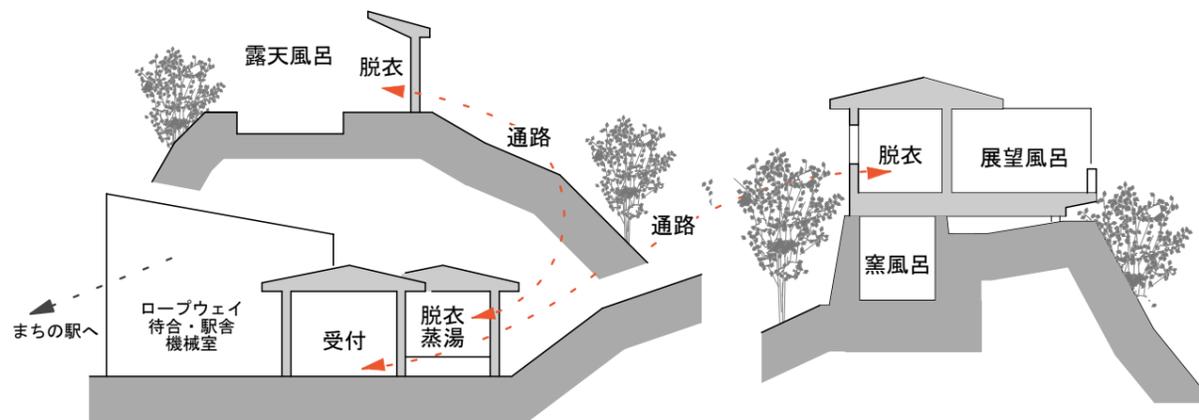


景観整備のポイント

- ・2箇所の展望広場における現況施設は眺望のよい立地を十分に活かしてきていないので、ポテンシャルを生かした整備とすることが最重要である。
- ・地形を利用した施設配置としたい。
- ・温浴施設については、江戸時代から二ツ嶽の麓で親しまれた蒸風呂、窯風呂の入り方を踏襲したものを小規模に展開する。
- ・上ノ山公園は完成した形で存在しているので、眺め等を考慮した間伐や枝打ち、下草刈りなど維持管理程度の整備とする。



窯風呂/展望風呂

※小さな温浴施設を配置する公園の整備は昔の蒸し風呂のあり方に習うことができる。



出典：伊香保誌(明治17年)

展望デッキ



見晴温泉広場 展望デッキ

二ツ岳の眺め



出典：伊香保誌(明治17年)

見晴温泉広場 露天風呂

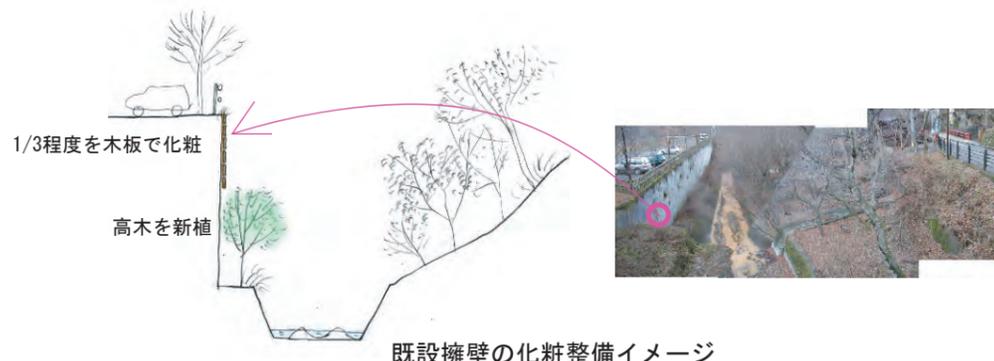
既設あずまや
 二ツ岳への眺望を確保
 (間伐・枝打ち)

景観整備のポイント

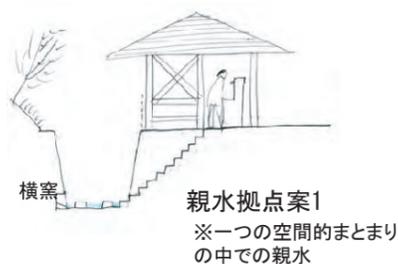
湯沢エリアには林間に遊歩道を通し、散歩が楽しめる場所を作る。
温泉公園エリアは湧き出た湯のせせらぎ整備を芯に、自然にゆったりと源泉の湯に親しむ場所としたい。
神社参道は、静かで厳かな雰囲気を作るためにも、要らないものを取り除いたシンプルな空間としたい。



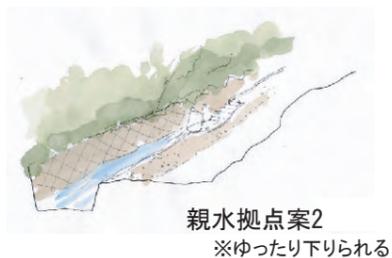
貯水槽設置
新温泉の心臓部であり、
あえて隠さず見せる考え方もある。



既設擁壁の化粧整備イメージ



親水拠点案1
※一つの空間的まとまり
の中での親水



親水拠点案2
※ゆったり下りられる

※両斜面尻にそれぞれせせらぎがあり
中央を歩く、という形は今も変わらない。



出典：伊香保誌(明治17年)



せせらぎ整備イメージ
自然の土の上を流れ、
石を置く程度で流れをコントロール

湯沢川沿い
エリア

湯沢

休憩用ベンチ等の配置

遊歩道の整備

道路脇歩道の整備

河鹿橋下

貯水槽の設置
200 t / 50 t / 50 t

既設擁壁の化粧整備

露天風呂、飲泉場 (温泉公園)

親水拠点の整備
※三面張り擁壁にも横窓あり

車道脇歩道の整備

蘆花公園再整備

露天風呂周辺の改修
※便所等の改修

湧水(温泉)のせせらぎ整備

神社参道

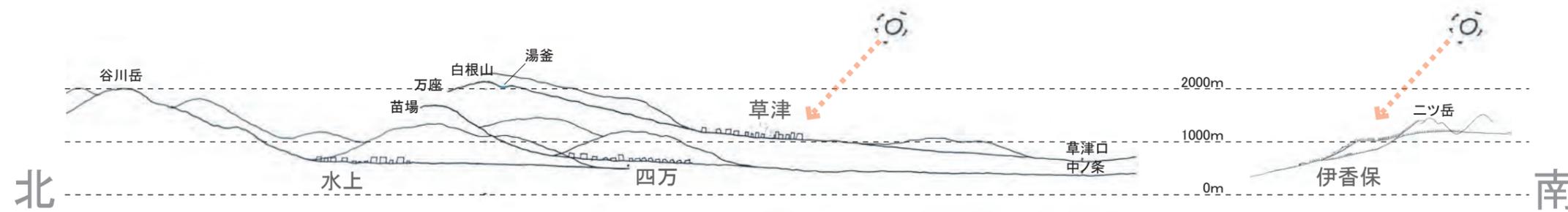
参道整備

神社の修繕
※電柱の移設



S=1/2500

0 10 50 100m



□南斜面の温泉街

草津

ゆるい斜面の中腹に位置する草津。ほぼ高低差の無い広場的空間の湯畑を中心に広がるメインの市街地は、標高1100-1200mに位置する。比較的開けた土地の為、陽の当たる時間も長い。



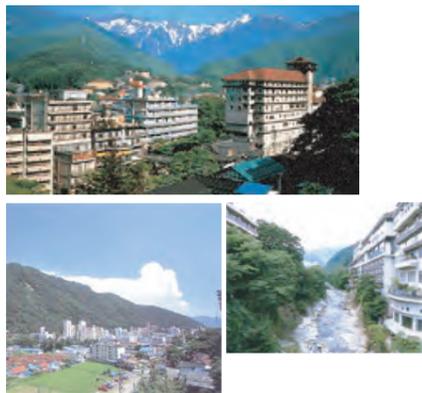
四万

四万川ダムを上流に抱える四万川を軸とした谷地形に線的に広がる市街地は、標高600-700mに位置する。山間の為、陽が周るのも早い。



水上

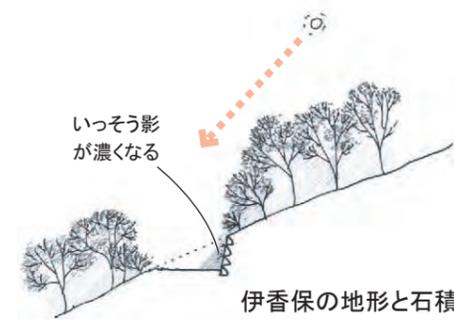
谷川岳を筆頭とする高い山々の谷地形部分、利根川源流地域に位置する。市街地は深い谷からやや開けてくるエリア、標高600-700mに川に沿った形で展開する。山間の為、陽が周るのも早い。



□北斜面の温泉街—伊香保



北斜面のため、町全体に影が多い。特に石積みは影の濃い部分となる。



モルタルを使わない空石積みまたは深目地の石積みには日陰に強い草花がしっかりと息づく。写真左3枚・・・御用邸跡/右3枚・・・八幡坂にて



急傾斜地の北斜面から眺める景色は特別なもの。前景が陰となってフレーミングされた「陽の当たる遠景」が浮かび上がり目に鮮やかに飛び込んでくる。このような景色からも「旅情」というのは生まれる。



伊香保の町は天然のピクチャーウインドウそのものであるといえる。



夜には町自体が内部から光を放つ。灯りは単体でなく連続することで初めて景色として見えてくる。

□南斜面の草津・四万・水上 / 北斜面の伊香保

伊香保の特性を知る為には群馬県内の4大温泉を比較すると、大きな意味で他の3温泉地は伊香保の対岸に位置しているといえる。南斜面の高低差の少ない土地に広がる市街は、陽の当たる明るいイメージがある。一方伊香保は北斜面に位置し、陽の当たる時間が少ない。急傾斜地に立地する旧市街にいたっては特に顕著であるといえる。

□北斜面の魅力 ▪ ...これこそが、地形的特性の生んだ伊香保特有で最大の魅力であるといえる。

- 1) 日陰植物(シェードプランツ)の楚々たる佇まい・・・近景として
- 2) 陽の当たる色鮮やかな景色を眺める特等席(劇場空間)・・・遠景として